

序

昭和56年の作況は春以来低温続きで、特に5月下旬から6月上旬にかけては、昭和年代に入っての記録となる程の低温であった。更に6月中旬から7月上旬迄も低温気味に推移し、各作物とも生育が遅延して、その前途が非常に懸念されたのであった。しかし7月中旬以降、一気に夏型の高温となり、作物の生育も回復を見せ、明るい見通しが出始め、漸く愁眉を開きかけたのであった。ところが、8月3日午後から降り出した雨は、まさにバケツの水を一気にあけた様に、しかも間断なく降り続き、中央農試の観測では6日迄に、416mmという記録的なものとなり、場内の圃場も大半が浸冠水するという被害を受け、落雷・停電というおまけまでついた災害となった。この豪雨による被害は特に空知を中心に全道で浸冠水16万haに及んだのである。

更に追い打ちを掛ける様に8月22日台風15号、9月3日台風18号が引き続いて来襲し、強風と雨により決定的とも言うべき打撃をもたらしたのである。5年前の昭和50年にも、約200mm弱の豪雨によって、道央地域は、主として石狩川の決壊による水害を蒙つたのであるが、この年は8月23日から24日にかけての降雨であったために、作物の生育は進んでおり、今年の災害とは相当様相が異っていたのである。

本年は水稻が出穂直前か出穂始めのものが多く今迄全く経験のない態様であるため、退水後の生育や収量予測が全くたたない状況であった。更に本年の作物被害を大にしたものとしては、全道で約50%に及ぶ転作が実施されていたために、いわゆる転換畑での畑作物被害が大であったことによる。特に秋播小麦は収穫直前のものが多く、その殆んどが商品価値を失い、又根菜類、豆類、野菜類等もおしなべて大きな被害を受けた。しかしこの様な状況の中で水稻は、その名の示す通り、水に対する強さを発揮し、2日程度の冠水でも若干の減収に留まっていて、水田は矢張り米を作る処だと言うことを更めて痛感させられたのである。

本報告は 8 月 7 日に中央農試に設置した、「北海道 8 月豪雨災害に関する農作物水害対策技術班」が、道央 5 支庁の関係普及所及び農家の協力を得て、今後、起るかも知れない災害のためにも、その被害状況を追跡調査し、被害要因解析を行ったものである。しかし、再度この様な災害の起らぬことを強く期待するものである。

なお、平常業務外であったが本調査を担当した研究員各位の努力と関係支庁、普及所、農家の方々の御協力に深く感謝の意を表する。

昭和 57 年 2 月

北海道立中央農業試験場長

中 山 利 彦

調査実施の経過

1. 調査の目的

昭和56年農耕期の気象は、近年に例を見ない程変動が大きかった。春先から7月中旬にかけての低温、8月上旬、下旬、9月上旬と三度にわたる大雨により、農作物は生育遅延に次ぐ雨害で甚大な被害を受け、被害総額792億円という大雨災害としては過去最高の被害となった。

本調査は、この未曾有の豪雨により既往の経験を超える新たな障害の発生も予想されたため、被害実情を把握して各種障害の原因究明と技術的指針を提示する事を目的として実施したものである。

2. 調査の方法

昭和56年8月3～5日にかけての豪雨の直後、8月7日中央農試に「北海道8月豪雨災害」に関する農作物水害対策技術班を設置して調査体制に入った。また、北海道農務部も専門技術員室を中心に各農業改良普及所を動員して、現地対応実態調査を行っていたので、中央専技室と連携をとりながら調査を進めた。班の構成と担当は次の通りである。

○北海道8月豪雨災害に関する農作物水害対策班の構成と担当

構	成	担	当
班長	高橋純一（副場長）	総	括
	仲野博之（畑作部長）	畑	作 物
	男沢良吉（稲作部長）	水	稲
	細貝節夫（園芸部長） 小山睦寛（専門技術員）	野	菜・花き・果樹
	小崎正勝（畜産部長）	牧	草・飼料作物・家畜
	奥村純一（化学部長）	共	通
	南 松雄（環境保全部長）	共	通
	高桑 亮（病虫部長）	共	通
	中川 渡（経営部長）	共	通
	菊地昭治（中央専技室主任専門技術員）	全	般
	丹代建男（岩見沢専技室主任専門技術員）	全	般
	森 義雄（技術連絡室長）	連	絡調整

なお、調査に当っては各担当を中心に、それぞれの部・室の研究職員、専門技術員が協力して実施した。

3. 調査内容

調査対象地域は、道央の5支庁（石狩・空知・後志・胆振・日高）管内としたが、調査は次の点について重点的に行った。

① 被害程度別追跡調査

被害程度別追跡調査は、各作物について被害程度別（3レベル）に調査地点を2ヶ所程度設け、追跡調査を行った。

② 新障害の原因解明と技術対策

新たなあるいは不明の障害発生の連絡があった場合は迅速に対応を行った。

4. 調査対象作物と追跡調査地点

各担当ごとの調査対象作物と追跡調査地点は次のとおりである。

区 分	作 物 名	追 跡 調 査 地 点（個所数）
稲 作	秋まき小麦	} 6点 品質調査
	春まき小麦	
	大 豆	新篠津村（3） 南長沼（2）
	小 豆	〃 栗沢町（2）
	ばれいしょ	適した地点なし
	て ん 菜	由仁町（2） 南幌町（2）
水 稲	水 稲	長沼町（7） 江別市（5） 北 村（5）
園 芸	た ま ね ぎ	札幌市 岩見沢
	キ ャ ベ ツ	〃 恵庭市 〃
	ダ イ コ ン	恵庭市
	ハ ク サ イ	札幌市
	ニ ン ジ ン	恵庭市
	ユ リ	栗山町
	ほうれんそう	札幌市
	カ ボ チ ャ	恵庭市 栗山町
	ス イ カ	栗山町 岩見沢
畜 産	メ ロ ン	〃 〃
	牧 草	江別市角山 北村砂浜
	とうもろこし	〃 北村大願